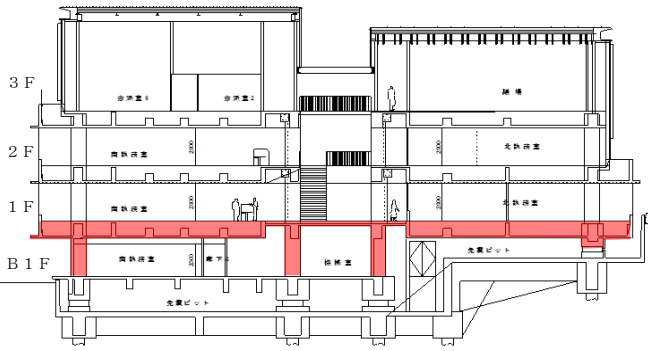


(南) (北)



【作業状況】

地下1階の柱・壁および1階の梁、床の型枠・鉄筋工事を進めています（赤色箇所）。

石岡市新庁舎建設工事
平成30年10月 完成予定

【進捗状況 No.06】

平成30年2月2日現在

➤ 1階床梁の型枠・鉄筋工事

現在、1階床梁の型枠・鉄筋工事を行っています。今後は、数回に分けて、この型枠へコンクリートを打設していきます。

※階数表記を改めました。

1階～4階 ⇒ 地下1階～3階



【外部足場】

躯体工事が進むにつれて、建物の周りには足場が組み立てられました。足場には飛散防止のためのシートが架けられています。



【1階床梁の型枠・鉄筋工事】

職人さんが図面通り鉄筋を配置していきます。コンクリート打設後は見えなくなるため、入念に配筋検査を実施し、確実な品質管理を行います。



【全景（平成30年1月22日）】

この日は降雪のため作業に影響が出ましたが、工事に遅れはなく順調に進んでいます。

【デッキプレート型枠の活用】

床スラブを打設する際、一般的には木製型枠を使用しますが、新庁舎では施工の合理化を図るため、床の型枠に鋼板のデッキプレートを一部使用します。木材削減による環境への配慮や、施工後の撤去が不要で、支保工（型枠の支え）の数も減らすことができるため、作業効率の向上が図れます。

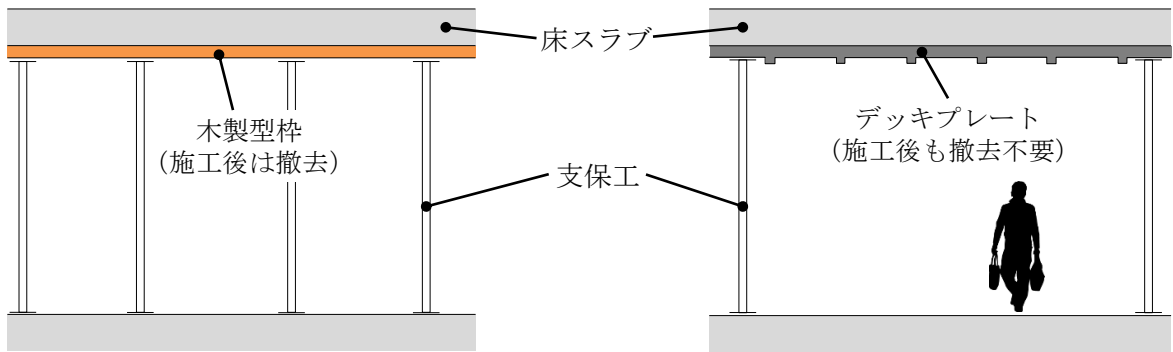
木製型枠

コンクリートが硬化するまでは、型枠の下に支保工と呼ばれる支えを数多く設置し、硬化後は支保工と型枠を撤去する必要があります。



デッキプレート

薄鋼板製の型枠で、支保工の削減ができます。また、スラブと一体となることから、施工後の撤去が不要となります。



新庁舎の躯体構造について

新庁舎の躯体は、鉄筋コンクリート造 一部鉄骨造（基礎免震構造）となっています。2階より下が鉄筋コンクリート造で、大スパンの梁にはプレストレスト造梁を導入し、大空間の執務スペースを確保します。また、逆梁とすることで、床下に設備スペースを設け、天井内の機器の設置をなくします。3階は鉄骨造の議会棟となっています。

